

事業への取り組みに向けた思い

<防災> 大規模な被災経験は無いが、いつ南海トラフ地震が起きてもおかしくない
→ 市民の防災意識は高く、防災訓練等の活動を積極的に行う地域は多い

<福祉> 「災害・緊急支援情報キット」を使った共助・支援体制づくりを進めてきた
→ 登録者の伸び悩み・地域への浸透に課題があり、見直しが必要



福祉と防災が連携し、より実効的な要配慮者支援を目指す
⇒ 庁内だけでなく、当事者・地域・福祉専門職の協力は欠かせない！

事業を通じた関係者の声

<地域>・・・どんな人が困っているか、どんな助け方が必要か考えることが出来た。

<福祉専門職>・・・自分の担当する人を、地域と一緒に考えてくれることが有難い。

<当事者>・・・地域の人と交流の場を持つことが出来、非常に心強い。

既存の仕組み①：災害支援キットの活用

要支援者と地域を結ぶ情報共有のための手段



個別避難計画の作成に生かしたい！



個別避難計画を進めるための検討会議 →計画作成と並行して実施

<参加者>

行政：福祉部局、防災部局

地域：自主防災会、まちづくり協議会、民生委員

福祉専門職：事業所職員

<内容>

- ・個別避難計画を作る優先度
- ・個別避難計画を市内に浸透させる方法

→参加者全員で考えてみる



それぞれの立場の視点を知り、「個別避難計画が必要」という共通認識を持つことが出来た！

既存の仕組み②：地域防災訓練での避難訓練

毎年12月第1日曜日の地域防災訓練は、市民に根付いている



作成した個別避難計画を検証できる！



町内会（自主防災会）

令和3年度 1町内会で実施
(2人の個別避難計画を作成)

**地区（まちづくり協議会等）**

令和4年度 1地区（11町内）で実施予定
(10人程度の個別避難計画作成を目指す)

**市内全域**

令和5年度以降 全26地区への
展開を目指す

令和3年度の実施事例

当事者→地域との関りを作ろうとしている
地 域→日ごろから防災活動に熱心に取り組んでいる
福祉専門職→事業の必要性を理解している

⇒事業を進めやすい環境だった！

⇔関係者が協力的でなかったら・・・？



**個別避難計画の必要性
をより多くの人々・団
体に知ってもらい、実
効性を高める！**

当初想定プロセス

-
- ```
graph TD; A[① 計画作成対象者・対象地区の選定] --> B[② 対象者・地区・福祉専門職への説明・依頼]; B --> C[③ 計画作成に向けた調整会議等の実施]; C --> D[④ 個別避難計画の作成]; D --> E[⑤ 作成した計画に基づく避難訓練の実施];
```
- ① 計画作成対象者・対象地区の選定
  - ② 対象者・地区・福祉専門職への説明・依頼
  - ③ 計画作成に向けた調整会議等の実施
  - ④ 個別避難計画の作成
  - ⑤ 作成した計画に基づく避難訓練の実施

自主防災活動熱心な地区  
は協力が得られやすい！

関係者の理解を得るため  
の大事なステップ！

当事者と支援者の顔合わせ  
の場を作るのが重要！